

三陸の海を放射能から守る 岩手の会

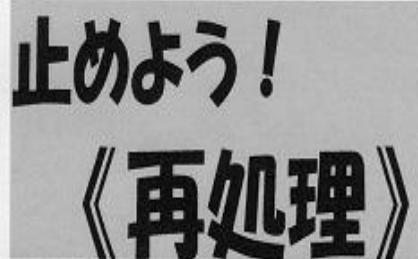
郵便振替 02240-5-102650

《再処理／岩手の環境》

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《また再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2009(平成21)年

12月 1日

第79号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

尾駿沼の生物 急速に放射能汚染 (財)環境科学技術研究所のデータから



撮影 2007.9 シーカヤッカーH・Tさん(岩手住)

原子力学会における同発表は、二〇〇六年のアクティブ試験実施に際して、尾駿沼を中心とした陸水域から沿岸海域における水堆積物、および生物試料中のヨウ素¹²⁹の『環境移行・線量評価モデル』(開発中)の検証のために、アクティブ試験開始前後の二〇〇五年度から八年度にかけて実施された分析報告です。

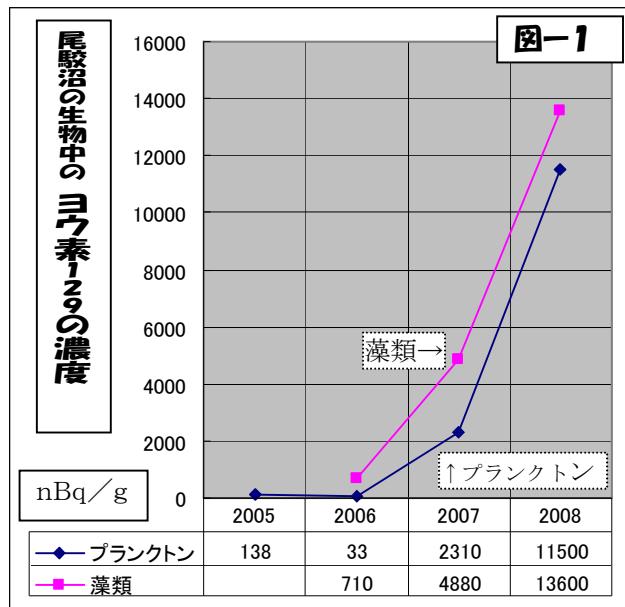
藻類で約一九倍
プランクトンで約八二倍
1、図-2の表とグラフ

尾駿沼の生物はどうなっているか?
尾駿沼への導入経路については明らかにされてしませんが、調査し明らかにしていくべきです。

六ヶ所再処理工場からアクティブ試験の開始後、ヨウ素¹²⁹の濃度は、図-1の表とグラフ

本年九月東北大学で開催された日本原子力学会において、(財)環境科学技術研究所が『アクティブ試験中の六ヶ所大型再処理施設周辺における水圈環境中のヨウ素¹²⁹の濃度』と題する研究報告をしました。

「岩手の会」では同研究報告書を青森県立図書館に出向いて閲覧し、その測定値などの資料を入手しました。そのデータから、尾駿沼のプランクトンのヨウ素¹²⁹濃度が約八三倍になつていて、水生生物の放射能汚染が急速に進行している事が明らかとなりました。



(財)環境科学技術研究所 (ホームページから)

所在地 青森県上北郡六ヶ所村尾駿

理事長 嶋昭紘氏 職員 67人・非常勤8人

2009年度予算規模 30.8億円 認可 1990年12月

設立目的・業務

1. 青森県内の空間放射線の分布、再処理工場の立地安全審査パラメーター(媒介変数)の妥当性の実証
2. 放射性物質の環境循環機構の解明
3. 低線量放射線照射の生物への影響の実証的研究
4. 放射線について生物への影響について知識啓発

のようですが、明らかに急速に増大しています。単位は「 1g 」あたりの「nBq」（ナノベクレル）という微少な値ですが、驚くほどに急上昇しています。二〇〇八年の数値を読み取つてみると次のようになります。

● **プランクトンは三年前の一九倍**
藻類は一万三六〇〇ナノベクレルで二年前

以下二〇〇五年測定値と二〇〇八年一〇月の測定値を比較すると

● 水草のアマモでは一六〇ナノベクレルで **一五・九倍**
● ワカサギでは一六〇ナノベクレルで **一〇倍**
● ハゼでは三三〇ナノベクレルで **四一・三倍**
● エビでは八六〇ナノベクレルで **一七・九倍**
● カキ貝では五七〇ナノベクレルで **一五・九倍**

● 水草のアマモでは一六〇ナノベクレルで **一五・九倍**
● ワカサギでは一六〇ナノベクレルで **一〇倍**
● ハゼでは三三〇ナノベクレルで **四一・三倍**
● エビでは八六〇ナノベクレルで **一七・九倍**
● カキ貝では五七〇ナノベクレルで **一五・九倍**

まず、プランクトンの八三倍や藻類の一九倍、アマモの一六倍の数値に驚かされます。云うま

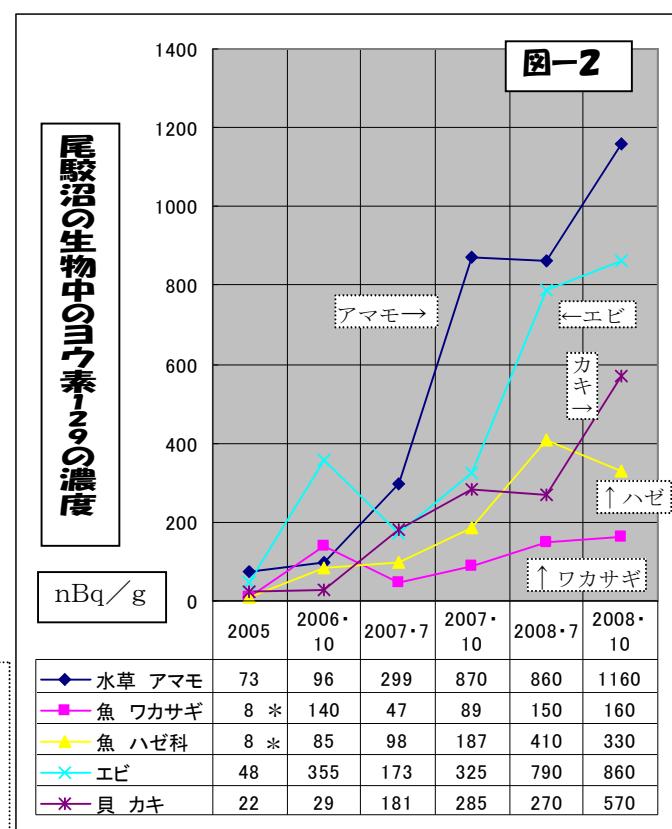
食物連鎖による濃縮

国のこと
の事業で行われたこ
めよう!

(注) 図 1-1-2
『放出放射能環境分布調査報告書』環境科学技術研究所 平成二〇年版四
(報告者・永田文夫)

小辞典「ヨウ素129」

ヨウ素は人間の成長に係わる甲状腺ホルモンの主成分。ヨウ素129は半減期1600万年という長寿命の放射性物質。放射性ヨウ素は人間の甲状腺に濃縮しガンなどの障害をもたらす。非常に飛散しやすく、環境中に放出されると海草などの植物に吸収され、食物連鎖に入り込む。 Chernobyl事故で最も多く見られた子どもの甲状腺放射線障害の原因物質はヨウ素131(半減期8日)。ヨウ素129は単位時間に放出する放射線は弱いとはいえ、半永久的に放射線を放出し続ける物質。影響が心配されます。



nBq・・・「ナノベクレル」と読み、10億分の1ベクレル、すなわち100万分の1ミリベクレル。
* 2005年の「魚 ワカサギ」と「魚 ハゼ科」の測定値の「8」は両者(区分不明)の平均値。

盛岡市内で署名運動再処理工場の稼働予定を凍結して下さい。
万にても高レベル廃液を漏らさないで!

道行く人々に声かけ

「岩手の会」会員など、二人は六ヶ所再処理工場からの放射能による環境汚染の阻止を訴えて盛岡市内繁華街で署名活動を行いました。折から雨でしたが、週末土曜日の午後ということで人出はやや多めでした。道行く人に「六ヶ所再処理工場から放射能が流れているのを知っていますか?」と声をかけながら署名を訴えました。



「え! ホント? と驚く市民」

「岩手の会」作成のカラーリーフを配りながら、一生懸命説明すると、かなりの人々から「えっ! ほんと、知らなかつた」と答

全国各地で市民達が六ヶ所再処理工場などの危険を訴えて一斉署名運動を行っています。名づけて“署名でCAN-Z”。一四、一五日には、札幌、仙台、東京多摩、埼玉、鎌倉、佐賀などで取り組まれました。二三日には「秋の共同行動」の一環として青森市内の新町で取り組まれました。

この全国署名は来年一月に内閣総理大臣に提出します。

一一月二七日現在二万六一一〇筆が岩手の会に届いています。

が返つて来るのが印象的でした。「頑張って!」と声をかけて署名をしてくれたり、リーフレットを受け取つただけで通り過ぎた人の中で、しばらくして、わざわざ戻ってきて署名してくれた人など協力的でした。この日二時間ほどで一八〇筆の署名が集まりました。